|  |
| --- |
| *生活衛生* |

*Ｈｏｔ　Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ*　　　　 　　№23　 2004． 4．28

ホット・インフォメーション　 　　　　笈　川　和　男

|  |
| --- |
|  |
| 飲 食 起 因 疾 病  ４月１６日付けで米国疾病対策センター(ＣＤＣ)の疫学週報(ＭＭＷＲ)増刊号があり、「飲食起因疾病の診断と治療（医師及びその他医療関係者のための手引）」でした。飲食起因疾病が簡潔にまとめられ、監視指導等に大変参考になると思われますので、前文と飲食起因疾病一覧表の部分を訳してお知らせします。  雑誌名　ＭＭＷＲ　April 16，2004/53(RR04) ；1-33  書　名　Diagnosis and Management of Foodborne Illnesses：A Primer for Physicians and Other Health Care Professionals  （飲食起因疾病の診断と治療：医師及びその他医療関係者のための手引）  前 文  飲食起因疾病は重要な公衆衛生上の問題です。ＣＤＣ（疾病対策センター）は飲食起因疾病により毎年7,600万人が罹患して、30万人以上が入院、5,000人が死亡していると推定しています。第一に、幼児、年配者そして免疫力の低下者が影響を受けています。最近の人口構成及び食品の嗜好の変化によって、食品製造及び流通システムが変化し､微生物の適応化、公衆衛生の低下により、よく知られた従前の飲食起因疾病だけでなく新しい疾病が出現しています。旅行及び貿易の拡大によって、現在は地域的な飲食起因疾病が、ごく一般的に世界的に拡大する危険があります。  医師及びその他医療関係者は食品関連疾病の集団発生の予防と対策に重要な役割を持っています。この手引きは飲食起因疾病の診断、治療、報告に関して、実用的で簡潔な情報の提供を目的としています。これはアメリカ医師協会、アメリカ看護協会、ＣＤＣ、食品医薬品局（ＦＤＡ）食品安全・栄養センター、アメリカ農務省（ＵＳＤＡ）食品安全監視局が協力して作成しました。  臨床医はこの手引きを再確認して、継続的な医学教育に関する学習の参加を勧めます。  飲食起因疾病一覧表  前号（2001年１月の増刊号）と同様に、飲食起因疾病を細菌・ウイルス・寄生動物・感染症以外に分類され、病因物質ごとに潜伏期間・症状・疾病期間・原因食品・検査方法・治療を簡潔にまとめられています。しかし、カビ毒に関しての記載はありません。前号と比べ、寄生動物に広東住血線虫(*Angiostrongylus cantonensis*)が追加され、ウイルスでノーウォーク様ウイルスがノロウイルスとなり内容が大きく変わり、他は少しずつ記載が多くなっています。  なお、翻訳するに当たり、病因物質は国内における名称として、米国固有の事項は除き、治療薬等についてはそのまま英語スペルとしました。  その他の内容  前号では、一覧表のほかにボツリヌス、腸管出血性大腸菌O157、リステリアの説明が大きく取り上げられていましたが、今号ではトキソプラズマ、Ａ型肝炎、ノロウイルス、薬剤耐性サルモネラ（特に*Salmonella* Typhimurium DT104）が大きく取り上げられています。  ＊不明の点等については、ＣＤＣのホームページで確認してください。（翻訳：笈川） |

生活衛生ホットインフォメーション　№23